

InterFM897

The 238th Programming Deliberation Committee

第 238 回番組審議会 議事録

開催日 2020 年 3 月 17 日（火）

出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、西田善太委員、攝待卓委員、井手口彰典委員

1、

議題（審議番組）： 「Cisco Systems presents Workstyle Innovation with KREVA」

放送日時： 2020/1/21(火)～1/24(金) 12:00 - 13:00

DJ： KREVA

会社からの説明

1/20（月）～26（日）の一週間、局統一キャンペーンとして、働く環境の在り方について考える「Cisco Systems presents InterFM897 Special Week ～Workstyle Innovation～」を開催。キャンペーン企画の一つ、特別番組『Cisco Systems presents Workstyle Innovation with KREVA』では、「働き方改革、こだわりのアイテムと空間」にヒントを与えてくれる様々なジャンルのスペシャリストがゲストに登場し、KREVA とリスナーと共に働く環境について考えていく。

委員からの意見・感想

審議委員 A

番組テーマである「働き方改革」というと、もっとシリアスな問題を抱えている面がある為、仕事にまつわる便利アイテムの紹介がメインになってしまっていたのは残念。羊頭狗肉で、テーマと番組内容にずれがあるように感じた。その点を意識せずに聞くと、DJ もゲストもアイテムの紹介は上手であったし、どんなものかと頭の中でイメージするのは楽しかった。アイテム紹介やゲストの個人史など、ブロックごとにトークの色分けができていたらメリハリがついてよかったのではないだろうか。音楽面では、オンエア楽曲の紹介や選曲理由をきちんと説明してほしかった。

審議委員 B

紹介される文房具のアイテムは、話を聞いていて非常に気になったが、全般的にどういったものかイメージしきれなかったので、最終的には WEB 検索をすることになった。ただ、DJ のしゃべりはよかった。彼の日本語の力・センスで、アイテムへの興味を引き上げてくれた。「働く」をテーマにした特番なのであれば、もっとゲストのストーリーやリスナーから

きたお便りについて話を膨らませて、テーマについて深堀りしたほうが面白いと感じた。

審議委員 C

「働く」というテーマや文房具アイテム自体には面白いものがあるものの、番組としては非常にもったいない作りになっていた。DJ とゲストの説明だけでは、何もわからなかった。DJ はリアクションをするポジションとして問題ないので、ゲストの語りで伝わらないところは、アイテムの形状などを説明できる進行役をまた別に設けたほうがよい。綿密な事前取材やディレクションが足りないと感じた。

審議委員 D

DJ のキャラクターは面白いが、ゲストの話が長く、時折退屈に感じてしまった。また、視覚的な要素に言及する際に「ラジオの限界を感じる」という発言があったが、それを突破する方法を探って表現させるべきだと思った。トーク内容についても、番組テーマに沿った展開としては、ゲストの職業に関する話、お金の問題やこれまでどういう苦労があったのかという話が聞きたかった。また、特番であってもミュージックステーションとして意識をして、音楽を大事にした進行にしてほしい。

審議委員 E

ゲストの文具ソムリエールという肩書がおもしろく期待をしたが、色・形・匂いも伝わらないラジオ番組で、なおかつ文具の説明に終始しているので、どうやって面白く展開するかもっと考えるべきだったと感じる。ゲストの職業の厳しさやストーリーを知れるほうが面白いのではないかと。DJ の KREVA は HIPHOP アーティストながら言葉がきれいだと感じた。どう伝えるかを意識しているし、この番組を通して、本人に興味を持った。そういう意味で DJ の起用は正解。ラジオと映像コンテンツが一緒に展開する方法がとれたら良かったと思う。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上